

ひょうご

職親会だより

2000. 9. 第7号

平成12年度 総会・講演会報告

「働くところ」

兵庫県精神保健職親会

会長 森本 稔

(森本鐵工株式会社)

やっと梅雨明けとなり、猛暑を覚悟しなければならぬ時期になりました。

皆様お元気でご活躍されておられることと拝察します。

総選挙も終わり、与党・野党共パンチの届く処までに至らず、すっきりしない政治が続く様です。各地では地震・噴火等不気味な地殻変動による災害・・・その警戒なのか？ 17才問題や様々な殺傷事件の増加・・・はたまたその都度、新聞・テレビ等は「精神病治療中・・・云々」と報道する。『なぜなんだ一体!!』と思う。改善基調と言われる景気も全く実感がなく、大企業の無責任倒産・リストラによる失業者の増加等々。

でも、「働くところ」を命題に職親事業所は努力と辛抱で頑張っております。早いもので皆様方のご協力で結成されました兵庫県精神保健職親会も4回目の総会を迎えました。

兵庫県では、職親制度が出来て30年近くなり関係機関・担当者のご努力で登録事業所は200カ所を越え、利用訓練生も約300名までになりました。

振り返ってみますと、職親事業所のネットワーク作りとして「職親会」を結成し、具体的な活動として年2回以上の研修会の開催や労働省サイドに於ける施策としてハローワークへの障害者雇用の現状を研修してきました。

本年は、精神障害者に関わる人々との交流が必要と考え、兵家連の西浦会長から県下の作業所指導員の方へ呼びかけして頂き総会・講演会に参加して頂きました。職親会の活動を作業所にも理解

して頂き、相互に連携して活動していけることを願っております。

私事ですが、今春ある作業所設立のお手伝いをさせて頂いた際、地域の人から「総論は賛成・各論反対 結構なことですが私の隣は困ります。」との声に、右往左往した事。そして、厳しい経営下で不安状態にある職親事業所として「共生とは、とことん理解と辛抱なりと覚えたり・・・」と世情の厳しい事について泣き言をいいました。

でも、そうばかり言っても始まらず、総会当日、元町駅西から県公館の前を通過して会場に行く途中に県木の楠を揺らして爽やかな風が吹いてきました。「気分転換、くよくよしても始まらないヨ。

万事塞翁が馬」と云う言葉を運んでくれた時、一句出来ました。

風かおり

楠の公館

ぬけてより

森本 稔

悩み多い職親会ですが、一步一步積み上げて行きたいと思います。今秋には、例年実施しております一泊研修を東播地区で計画しております。楽しい研修会にしたいと思いますので是非ご参加下さるようお願い申し上げます。

合 掌

祝

詞

兵庫県県民生活部健康福祉局障害福祉課

課長 兼 井 孝 政

本日は、平成12年度兵庫県精神保健職親会の総会にお招きいただきましてありがとうございます。

また、平素は本県の精神保健福祉行政の推進、特に、精神障害者の社会参加及び社会復帰の促進につきましては格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

この通院患者リハビリテーション事業も、昭和62年12月より事業を開始して以来14年目を迎えました。今年3月末には協力事業所が、神戸市を含め207事業所となりました。昨年度は、276人の訓練生が訓練総日数も3万日を越える訓練を行っております。そのうち、兵庫県では、230人の訓練生が、29,791日の訓練を行いました。これは、全国的に見ても兵庫県が大きな成果をあげていることがわかっております。これもひとえに職親の皆様の熱意とご理解の賜物であると確信しております。

また、この度の法改正において精神障害者居宅生活支援事業の実施主体が市町となり、より住民に身近な地域での在宅福祉サービスの充実とともに、精神障害者の社会復帰を考えていく中で、通院患者リハビリテーション事業のより一層の拡充が望まれているところです。

今後とも、一人でも多くの精神障害者の社会復帰が図れるよう事業の推進を図る所存でございます。

そのためには、このような職親の皆様同志の交流や情報の交換、各地域での通りハ事業参加への働きかけ等、職親会の皆様方の活躍に期待するところが大きいと考えています。この場をお借りいたしまして、改めてご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、職親会の躍進と、ここにご参集の皆様方のご健勝を祈念いたしましてあいさつとさせていただきます。

神戸市保健福祉局障害福祉部育成課

課長 安 井 昌 義

平成12年度兵庫県精神保健職親会総会のご盛會を、心よりお喜び申し上げます。

この兵庫県精神保健職親会も発足後、早や4年目を迎えました。職親の皆様におかれましては、日頃より社会復帰を目指す訓練生の方々に暖かく見守りながら御指導いただき、厚くお礼申し上げます。おかげをもちまして、神戸市における社会適応訓練事業も順調に軌道に乗り、協力事業所数並びに訓練生の数も着実に増え、また、職親の皆様の御協力もあって3年間の訓練期間を終えて就労に結びつく事例も、継続的に出ております。厳しい雇用状況の中、精神障害者の社会復帰施策の中で職親制度が果たしている役割は大きく、神戸市としても職親の皆様と連携を図りながら事業の推進や制度の周知に努めて参りたいと存じますので、今後ともご理解・ご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

神戸市では、昨年4月、西区榎谷町に市内で初めての社会復帰施設として、精神障害者通所授産施設「なでこの里」と地域生活支援センター「虹の里」がオープンいたしました。そこでは、精神障害者の就労に向けた支援を公共職業安定所などと連携しながら進めておられます。特に、地域生活支援センターは、精神障害者の在宅での生活を支える地域における中心的施設として期待されており、今年度は、市内で2か所目の地域生活支援センターの建設が兵庫区内で着手される予定です。本市としては、精神障害者の社会復帰のニーズが高まっていることを踏まえつつ、社会復帰施設の整備などハード面の施策推進とともに社会適応訓練事業を含むソフト面での事業の拡充に、今後とも努めて参りたいと存じます。本日は、総会の後、料理研究家の白井先生によるご講演がありますが、多くの会員の方々が集まって来られるこうした貴重な機会を通じて、職親会の活動が今後一層充実したものとなることを願っております。

最後に、森本会長さんのもと、兵庫県精神保健職親会の一層の御発展と、本日ご出席の職親の皆様のご健勝並びにご多幸を祈念致しまして、甚だ簡単ではございますが、お祝いの言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

平成 11 年度 事業 報告

| 事業名 | 年月日 | 場所 | 内容 |
|---|--|---|--|
| 1 定期総会及び講演会 | 11. 6. 7 (月) | 兵庫県農業共済会館 | 総会及び講演 ◆講演 「心のたすきリレー」 《講師》 兵庫県立西脇工業高校陸上部監督 渡辺 公二 *参加者：75名（職親11名/関係者64名） |
| 2 研修会の開催 ・精神保健職親会研修会 ・社会復帰事業関係者 研修会と合同 | 11. 11. 12 (金) ～ 13 (土) | かんぼの宿 赤穂 | ◆講義 「こころの病の後遺症」 《講師》 赤穂仁泉病院 院長 深井 光浩 ◆講義 「赤穂義士について」 《講師》 赤穂市文化振興財団理事長 木山 正規 ◆話題提供 理事 米口 守 *参加者：34名（職親12名/関係者22名） |
| | 12. 3. 10 (金) | 兵庫県農業共済会館 | ◆講演 「ほどよい援助と自立の接点 ～地域精神医療の視点から～」 《講師》 公立豊岡病院精神科医師 波床 将材 ◆座談会 ・公立豊岡病院精神科医師 波床 将材 ・精神医療サバイバー&保健福祉コンシューマー 広田 和子 ・神戸市西区保健部 精神保健福祉相談員 土井 寛子 *参加者：140名（職親10名/関係者130名） |
| 3 役員会の開催 | 11. 5. 13 (木) 11. 9. 29 (水) 11. 11. 12 (金) | 精神保健福祉センター 〃 かんぼの宿 赤穂 | 第1回役員会 *参加者：11名（役員5名・関係者6名） 第2回役員会 *参加者：9名（役員4名・関係者5名） 第3回役員会 *参加者：9名（役員4名・関係者5名） |
| 4 広報普及 (イベントへの参加) | 11. 10. 14 (木) 11. 10. 23 (土) 12. 2. 21 (月) 12. 2. 28 (月) 12. 3. 7 (火) 11. 7. 17 (土) 11. 11. 3 (水) | 福崎保健所 東灘区民センター 社保健所 伊丹保健所 川西保健所 サンライフ三木 メリケンパーク | 「管内職親交流会」 助言者 森本 稔 (会長) 「精神保健福祉セミナー」 講師 森本 稔 (会長) 「家族教室」 講師 高嶋 秀忠 (監事) 「通りハ事業協力事業所連絡会」 講師 森本 稔 (会長) 「精神保健福祉推進連絡会」 講師 石井 建三 (副会長) ・11年度神戸東播淡路地区精神保健福祉研修会 会長 森本 稔 監事 高嶋 秀忠 ・ハートフェスタ99バザー出店 |
| 5 情報提供 | 11. 9 12. 1 12. 3 | | ・「ひょうご職親会だより」第5号発刊 ・「ひょうご職親会だより」第6号発刊 ・リーフレット作成 「手伝ってください！職場への第1歩」 |
| 6 全国職親会への協力 | 11. 10. 8 (金) ～ 10. 9 (土) 11. 11. 24 (水) 12. 3. 24 (金) ～ 3. 25 (土) | ハートピアきつれ川 全国恵友記念会館 国立精神・神経センター | 役員会及び総会 出席 「精神障害者社会適応訓練事業研修会」 森本 稔 (会長) 役員会 出席 森本 稔 (会長) 「第10回精神保健職親研修会」参加 森本 稔 (会長) 事務局2名 |

(参考) ・兵庫県精神保健職親会会員 64事業所
・ “ 賛助会員 104名 (194口)
・精神障害者社会適応訓練事業協力事業所数 209事業所

内 訳

| | 事業所数 | うち稼働している所 | 職親会会員 |
|-----|------|-----------|-------|
| 兵庫県 | 177 | 86 | 53 |
| 神戸市 | 32 | 17 | 11 |
| 計 | 209 | 103 | 64 |

(平成12年3月31日現在)

平成11年度収支決算書

(収入の部)

単位：円

| 科目 | 予算額 | 決算額 | 増減 | 備考 |
|-------|---------|-----------|---------|---------------------------|
| 年会費 | 186,000 | 132,000 | △54,000 | 3,000×44事業所 |
| 賛助会費 | 84,000 | 195,000 | 111,000 | 1,000×195口 |
| 委託費 | 546,000 | 546,000 | 0 | 兵庫県 |
| 寄付金 | 1,000 | 7,000 | 6,000 | |
| 雑収入 | 22 | 42,402 | 42,380 | ハートフェスタ売 上げ金 預金利子ほか |
| 前期繰越金 | 120,978 | 120,978 | 0 | 前年度から |
| 計 | 938,000 | 1,043,380 | 105,380 | |

(支出の部)

単位：円

| 科目 | 予算額 | 決算額 | 増減 | 備考 |
|-------|---------|-----------|----------|--|
| 講師謝金 | 150,000 | 102,000 | △48,000 | 記念講演会 50,000 研修会(2回) 52,000 |
| 旅費 | 375,000 | 147,320 | △227,680 | 全国研修会 44,620 役員会(2回) 37,550 講師旅費 30,000 渉外 35,150 |
| 会場費 | 70,000 | 114,300 | 44,300 | 講演会会場等 90,300 研修会会場 24,000 |
| 通信費 | 93,560 | 64,040 | △29,520 | 切手 郵送料 |
| 事務費 | 154,440 | 341,944 | 187,504 | たより印刷(2回) 193,200 用紙、写真等 |
| 分担金 | 40,000 | 40,000 | 0 | 全国職親会会費 |
| 予備費 | 55,000 | 30,525 | △24,475 | 沖縄復興募金等 |
| 次期繰越金 | 0 | 203,251 | 203,251 | 次年度に繰り越し |
| 計 | 938,000 | 1,043,380 | 105,380 | |

上記のとおり相違ないと認めます。

平成12年3月31日

監事 高嶋 秀忠 ㊟

監事 上川 雄吾 ㊟

役員名簿

| 役職 | 氏名 | 事業所名 |
|-----|--------|--------------|
| 会長 | 森本 稔 | 森本鐵工株式会社 |
| 副会長 | 西村 稜威雄 | 西村商店 |
| 〃 | 石井 建三 | イシイリネン株式会社 |
| 理事 | 米口 守 | 旬米口グリーンナーセリー |
| 〃 | 細見 勝 | 伸和青果食品株式会社 |
| 監事 | 高嶋 秀忠 | 高嶋園芸 |
| 〃 | 上川 雄吾 | 株式会社金森商店 |



平成12年度事業計画

- 1 定期総会及び講演会
- 2 研修会の開催(年2回、内1回は県立精神保健福祉センターとの共催)
- 3 役員会の開催(年3回)
- 4 広報普及
- 5 情報提供 ひょうご職親会だより発行
- 6 全国職親会への参加並びに連携
- 7 会員の増強
- 8 各種団体との連携
- 9 その他

平成12年度予算書

(収入の部)

単位：円

| 科目 | 今年度 予算額 | 前年度 予算額 | 増減 | 備考 |
|-------|------------|------------|---------|-------------|
| 年会費 | 192,000 | 186,000 | 6,000 | 3,000×64事業所 |
| 賛助会費 | 100,000 | 84,000 | 16,000 | 1,000×100口 |
| 委託費 | 546,000 | 546,000 | 0 | 兵庫県 |
| 寄付金 | 0 | 1,000 | △1,000 | |
| 雑収入 | 19 | 22 | △3 | 預金利子ほか |
| 前期繰越金 | 203,251 | 120,978 | 82,273 | 前年度から |
| 計 | 1,041,270 | 938,000 | 103,270 | |

(支出の部)

単位：円

| 科目 | 今年度 予算額 | 前年度 予算額 | 増減 | 備考 |
|------|------------|------------|---------|--|
| 講師謝金 | 170,000 | 150,000 | 20,000 | 記念講演会 100,000 研修会 70,000 |
| 旅費 | 385,000 | 375,000 | 10,000 | 講演・研修会 60,000 役員会 25,000×3回 全国研修会 50,000×2人×2回 渉外など 50,000 |
| 会場費 | 80,000 | 70,000 | 10,000 | 講演会 50,000 研修会 30,000 |
| 通信費 | 111,840 | 93,560 | 18,280 | 総会・研修会 90×168×5回 情報提供 270×64×2回 役員会 80×7×3回 |
| 事務費 | 199,430 | 154,440 | 44,990 | たより印刷(2回) 用紙、封筒、印鑑、 写真現像ほか |
| 分担金 | 40,000 | 40,000 | 0 | |
| 予備費 | 55,000 | 55,000 | 0 | |
| 計 | 1,041,270 | 938,000 | 103,270 | |



講演主旨

今回の講演では、料理研究家白井操氏にご講演をいただきました。

新聞や雑誌・テレビやラジオなどを通して食の楽しさ・大切さを伝えてこられました。

講話より・・・

最近はお母さんが以前にも増えました。また食べる側のお父さんは仕事に追われ、子供たちも塾やクラブが忙しくて、家族揃って食事をする機会が減っています。日本はこの40年間、食事風景がずいぶん変化してきました。

————— チャブ台は全員参加の食事 —————

サザエさんでお馴染みの折り畳み式の丸いテーブルには、ご飯を食べることで集まってくる家族のつながりがありました。毎日繰り返されるこの作業で、子供は大切なメンバーとしての思いやりやいたわりを覚えていくのです。

————— 疑似体験を繰り返す子供たち —————

テレビやゲームで、虫をさわった気になってしまう子供たち・テレビで見た魚を実際に見た気になってしまう子供たち。食べた気になってしまうレストランのメニュー。ですから実際に目の前で起きていくことに手が出せず、困ったことに遭遇してもウロウロしてどう対処したら良いのか戸惑うばかり・・・。

食卓に会話があって家族といつもコミュニケーションがとれていたら、もっと身近な経験が増えてくるのではないのかしら・・・と案じてしまうのです。

お母さん、子供たちにもっと季節の野菜のこと・丸ごと一匹の魚のこと・暮らしのこと等話してあげましょう。

————— 家庭での行事食は子供たちに日本の四季
折り折りの様子を伝えるチャンスです —————

日本はこれまでの暮らしの中。記念日や行事食を通

して先人の知恵を伝え、お祝いを共に祝うことを大切にしてきました。

ですから、昔、子供たちが繰り広げる運動会は地域をあげて祝い、皆でお弁当を食べて元気な子供の姿を喜んだものです。

近頃ははどうでしょう・・・お母さんは始業時から集まらず校門付近には、お弁当屋さんの注文分引き渡しの光景が見られるようになってしまいました。お父さんは何より我が子の顔をビデオに納める事に夢中です。又お弁当のおかずもどちらも同じようなものばかり、冷凍を温めたものが目立ちます。それにしても毎日のおかずがハレの日のメニューになっているのには驚きます。ケの日はどこに行ったのでしょうか。

————— 食事づくりはいつもお母さんとは限らない —————

お父さんを驚かすわけではありませんが、もし奥さまが先に亡くなったら、あなたの健康的な食生活は誰が支えるのでしょうか。生活習慣病はバランスのよい食事がポイントです。

料理作りを始めてみませんか。人生の新しいチャンネルにぜひ、料理を加えましょう・・・といってハサミで魚をさばく方法を教えて下さいました。

料理は楽しい。今日召し上がったものが明日の笑顔のエネルギーになることを忘れないで下さいネ・・・
と言われ無着成恭さんの「いただきますの心」という詩を読んで終えられました。

訓練生の声

ある訓練生の き・も・ち

最初は、おそろおそろでした。僕の頭の中では、仕事はどうするものと知っているつもりでしたが、最初の一撃で、こっぴみじんに粉碎されてしまいました。任された仕事は、今から思えば、ごくごく軽い作業でしたが、仕事に対する不慣れからくる疎外感の方が大きく作用し、惨めな敗北感に襲われ、自分の信念も大きく揺らぎました。

しかし、ここで負けてしまっただけは何にもならない。負けてしまえば一生涯うだつのあがらない人間になってしまう、というおそれが一瞬にして脳裏をかすめてゆくのでした。与えられた仕事は、軽作業が主でしたから、自分の肉体に無理無く消化できそうな

が唯一の救いでした。おかげで一月もすれば体の方がしだいに慣れてきました。今は、その仕事内容も最初に比べて若干の変更がありましたが、自分の仕事に対して自分なりの解釈をするようになり、またその余裕も生じてきました。これはあくまでも「自分の仕事は正業に対する補助業務であるという価値観」をまずもっていなければなりません。補助業務は補助業務でいいのです。仕事内容で大切なことは、それが充実しているかどうか！なのです。

今の自分に出来ることは補助業務ですが、「限られた時間内にどれだけ多くの成果を得るか」と言うのが、今の自分の目標です。出来るだけ早く目標に近づき、目標をクリアできることが、最大の僕の目標です。
40代・男性

職親の声

職親になって

兵庫県精神保健職親会

監事 高嶋 秀忠 (高嶋園芸)

当社は観葉植物(ゴムの木・サンスベリア・ポトス・フレグランス)の生産や貸植木(リース)の業務を東播地方で行っております。

私が職親になるきっかけは、加古川のある病院に貸植木に行き植木を交換していると、ある人が「私の病院にも来てくれないか!？」と依頼され、喜んで行くといふまで知らなかった精神病院でした。一緒について行くと「各部屋に一鉢づつ置いて下さい」とのことでした。それまでは、精神障害者の人がそんなに多くおられることなど知らなかったのです。10代の若い方から60~70代の方までたくさんの方がおられ、各部屋には鍵がかかっていました。又一方では、社会復帰に向けて若い人から中年の方までが、農耕作業・花づくりやサッカー・バレーボール・ソフトボール等のスポーツを作業療法としてされていました。その病院に何年間かお世話になっていると、ある時作業療法をされている方から「この人たちの社会復帰に一役買ってくれないか?」と頼まれました。返事はすぐ出来ませんでした。何ヶ月か、かかって承諾。初めて“通院患者リハビリテーション事業”に関わる事になりました。こんなことがきっかけとなり私の職親がスタートしました。

職親とは、『精神障害者の社会的自立を促すことに熱意を持ち、精神障害者に働く場を提供する事業』のことで、訓練生は障害の状態が明らかに回復途上にあり、病状は安定しているが、仕事に対する集中力や持久力等がまだ十分でない精神障害者です。

ある年の8月から30代と40代の2名の訓練生を受け入れる事になりました。仕事の内容は、貸植木に持って行く木の鉢拭き・植木の手入れ・鉢の中のゴミ取り等をして車の中に積みこむ作業やポトス・パンドラ等のさし芽をしたり・・・と様々です。本当に暑い中、2名共どの作業にも一生懸命でした。植木の名前がなかなか覚えられなかったりもしましたが、それでも2名は頑張って3~4ヶ月目頃には、

初めての職親体験

田島洋子(シャディギフト・ライブ)

当店は、家族と従業員で贈答品販売の仕事を営んでおります。

職親のご依頼を気軽にお受けしたものの、訓練生の何をするにも身体が震えるほど緊張されている姿を見てハッキリ言って「これは大変な事を受けてしまったな」と責任の重さをつくづく感じました。当初は訓練生だけでなく、受け入れているこちらまで緊張し、どう対処したらいいのか・・・?と戸惑う事もありましたが、最近では、その緊張も殆ど感じないまでになっています。

訓練生の仕事ぶりは、まじめにコツコツとやって頂いています。私を含め従業員も日々忙しさに紛れなかなか目が行き届きませんが、特に「どうもありがとう」「助かったワア」といった声かけは気をつけ

すべての名前が覚えられるまでになり、これらのことが自信となり就職へとつながってゆきました。初めに30代の訓練生が喫茶店に就職が決まり、次に40代の訓練生が自動車の洗車の仕事に決まってゆきました。続いて翌年2月からは、19才と26才の訓練生を受け入れる事になりました。19才の訓練生は当社で6年間訓練されました。その間も何回か悪くなったたり良くなったりを繰り返しながらも頑張り、その後はある鉄鋼所に勤め旋盤を使う仕事をこなし会社でも大変喜ばれています。26才の訓練生は半年間当社で訓練し、その間にいろいろな所で就職活動をし、最後にスバル自動車の仕事が決まり自分の好きな仕事に就くことが出来ました。

この様に当初受け入れた訓練生が皆うまく社会復帰が出来大変嬉しく思いました。その後もいろいろな所から多くの訓練生を受け入れています。役に立ったり立たなかったりしながら現在に至っています。去年は3名受け入れていましたが、現在は1名です。彼も4年になります。今ではどんな仕事もこなすようになっていますが、いざ就職するとなると今はなかなか見つからないようです。彼にも自分の希望する就職ができれば・・・と願っています。

こうして、大勢の訓練生を受け入れて思うことは・・・

良くなって行く訓練生は、親・夫婦の仲の良い人の子供であったり、訓練生が家に帰って「今日はこんな事をした」等親子の対話の出来る家庭の子供であったり、私(職親)が訓練生の親に「相談があるので来て欲しい」と言うとうすぐに来てくれる家の子供であったりする様に思います。その反対の家庭の訓練生は早く辞められていかれます。訓練生の社会復帰には家庭環境が大いに影響する・・・と。

これからも職親として頑張る努力してゆきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

てかける様にしています。そんな時は、何とも言えない和やかな笑顔をされます。当初緊張ばかりだった訓練生からは、想像も出来ない表情を見せてもらうと、素直な言い方で「良かった!!」と安堵します。日々の忙しさの中で昼食時は唯一ゆっくりと皆で会話をします。訓練生から話しかけてこられることは少なく、もっぱらこちらから尋ねる事ばかりですが、こちらが話しかけるのを待たれていたかのように楽しそうに答えて下さいます。

こうして訓練生の家族から「訓練生が、当店で働いていることを喜んで」と聞くと大変嬉しく思うと共に、これからはお互いにもっと会話出来る様に努力したいと考えています。

今後の課題としては、スピードやノルマも現状をふまえながら調節し、一層の充実を図れば・・・と考えています。

兵庫県精神保健職親会

事務局：〒652-0032

神戸市兵庫区荒田町2丁目1-29

県立精神保健福祉センター内

Tel: (078) 511-6581

Fax: (078) 511-6585